

令和3年度 専修大学玉名高等学校  
「学校評価アンケート」の結果について

専修大学玉名高等学校  
校長 渡辺 正隆

本校では、令和4年3月に学校評価アンケートを実施しました。実施にあたりましては、多くの生徒及び保護者の皆様から、ご協力いただき、誠にありがとうございました。

この度のアンケートでは、学校生活全般・学習・生徒指導・進路指導など本校の教育活動全般にわたって評価していただきました。

これらの評価を真摯に受け止め、学校改善に取り組むとともに、次年度の学校教育づくりに努めていきたいと考えています。今後も保護者の皆様方のより一層のご支援をお願いいたします。

○掲載内容

- ①生徒アンケート集計結果
- ②保護者アンケート集計結果
- ③本校教職員アンケート集計結果

## 令和3年度学校評価アンケート結果を受けて

令和3年度のアンケート結果のうち生徒を見てみると、「学校生活全般」、「生徒指導」、「進路指導」、「特別活動」、「健康安全」の項目で肯定的な割合が高く示されました。肯定的な割合が低い「学習」項目でも55%で昨年度より5ポイント上昇しています。保護者と職員のアンケート結果も同様の傾向がみられます。

生徒の結果のうち「学校生活は楽しい」、「目的・目標を持って生活している」、「先生は生徒一人ひとりを大切にしている」、「学校は安全で、安心して生活できる」、「先生は丁寧で分かりやすい授業をしている」、「学校はいじめなどに適切に対応している」などは肯定的な答えが昨年度よりも10ポイント以上上昇しています。

令和3年度から1年生と2年生は年3回（3年生は2回）国語、数学、英語のベネッセ基礎力診断テストを実施し、生徒の学習到達度や生徒の強みを測定しています。テスト前は教科ごとにONE WEEKトライアルで事前学習に取り組み、テスト終了直後は振り返りを行いました。また、データ返却後に自分の弱点を復習することを勧めており、クラスや教科で実践しました。生徒・教師の共通の言語としてGTZ（学習到達ゾーン）が認識されてきているので、生徒の学習意欲を引き上げる要因になっています。さらに一部の生徒を対象に基礎力診断テスト前、定期テスト前に学年ごとに学習会を開いています。このような学習に対する取り組みが「学習」項目や「目的・目標を持って生活している」、「先生は生徒一人ひとりを大切にしている」、「先生は丁寧で分かりやすい授業をしている」のポイント上昇につながっていると考えます。

令和2年度から生徒会を中心に取り組みはじめたSDGs（持続可能な開発目標）は、昨年5月に玉名市と「SDGs達成に向けた人材育成に関するパートナーシップ協定」を締結し、令和4年1月には「熊本県SDGs登録事業者」として県下の高校では初めて認証されました。ご家庭でもSDGsの目標達成にご協力いただきますようお願いいたします。

新型コロナウイルスによる影響は今なお続いています。生徒の安全を第一に感染症防止対策を徹底し、本年度も教育に取り組んでまいります。

尚、保護者から頂いたご意見は、真摯に受けとめ検討させていただきます。全職員で改善し、次年度に活かしていきたいと思っております。

皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。